

冬春キュウリの持続可能で省力的な防除体系の確立

- 実施期間：令和7～9年度
- 担当部署：病理昆虫部
- 区分：地域密着型研究・県単

○研究内容

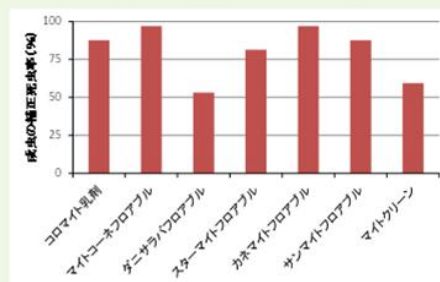
県内のキュウリ産地では、ウイルス病（黄化えそ病、退緑黄化病）およびその媒介虫が安定生産を脅かす要因の一つとなっています。媒介虫のミナミキイロアザミウマ、タバココナジラミは微小で繁殖力が高く、薬剤抵抗性が発達しやすい害虫です。そこで、現地では防虫ネットや天敵の活用を試みっていますが、安定した防除効果が得られていない状況です。

近年、新たな防虫ネットや従来の製品を改良し高い防除効果が期待される天敵製品が販売されていることから、それらの有用性を検証するとともに、薬剤感受性検定で明らかになった結果を活用し、省力的で効果的な防除体系の開発を目指します。

供試微小害虫:ミナミキイロアザミウマ、タバココナジラミ

①効果の高い農薬の選抜 農薬の感受性が低下 薬剤感受性検定の施行

現場での効果的な
薬剤防除につなげる



②新機能防虫ネットの効果検証

合成ピレスロイド剤(エトフェンプロックス)を
練り込んだ防虫ネットによる侵入抑制効果を検証

薬剤効果の比較

侵入抑制効果の高い
防虫ネットの普及

③改良型天敵製剤による効果検証

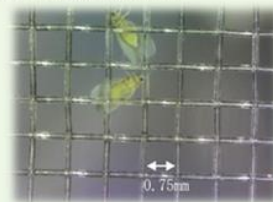
従来品のスワルスキーカブリダニ剤



防除効果を検証

改良されたスワルスキープラスUM

新天敵製剤の特性の解明



スワルスキープラスUM